



JSQC ニュース

No.231

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話.03(5378)1506 FAX.03(5378)1507

ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス『日本ものづくり・人づくり質革新機構』の活動がスタートする
- 2-私の提言『品質抜け』を防ぐ為に
- 3-ルポルタージュ 第1回ISOマネジメントシステム公開講座ルポ
- 3-ルポルタージュ 第271回事業所見学会ルポ
- 4-7月の入会者紹介 / 教員募集 / 職員募集 / 行事案内

「日本ものづくり・人づくり質革新機構」の活動がスタートする

専務理事 横田 浩、事務局長 慈道 順一、佐藤 みゆき

新年早々の1月12日 トヨタ自動車(株) 豊田名誉会長をはじめとして、官界、経済界、産業界、学会および品質管理に関係の深い協会・団体の代表者 32名により発起人会が開催され、設立の準備を始めた当機構は、去る5月23日に第1回総会が学士会館で開催され、その活動がスタートしました。その後、幹事会を中心とした熱心な討議を重ね、7つの部会が編成され、具体的な研究開発活動がスタートしました。

当機構の名称が決まりました

ニュースNO.219号で、元学会長としてこの機構の設立に熱心に活動された筑波大学の吉澤 正先生が、「日本品質革新機構の設立に向けて」と題して、当機構の誕生の経緯、その目指すところなど将来の夢を語って戴きました。会員の皆様も記憶に新しいことと思います。

当機構の名称は標記のように最初に提案された名称よりやや長い名称になりました。

“ものづくり”は、わが国の生命線とも言えるべき経済力の源泉であるとの政府(経済産業省)の信念、

“人づくり”は、ものづくりの基本は人づくりにありとの高橋理事長の強い思い、“質革新”は、製品・サービスそして経営の質の重要性についての永年に亘る学界の主張など

が、それぞれ融合し一つに凝縮した結果であります。やや長いのではとのご意見や、事務局も電話の対応にしばしば困ることもありますが、多くの関係者の力の結集が期待される当機構には、当を得た名称だと思います。略称は、

JOQI (Japan Organization for Quality Innovation) と称しています。“名は体を表す”の例えに恥じない成果を達成したいと決意を新たにしています。

5月23日の第1回(設立)総会にて、組織・役員と会則が決まりました

本年5月23日、千代田区神保町の学士会館に約100名の会員が参集し、経済産業省の佐々木 伸彦課長および東海大学の唐津 一先生のご挨拶の後、当機構の役員や会則が承認され

ました。

理事長には、デンソーの高橋 朗会長が就任されました。

高橋 朗理事長は、当機構の目的・運営について、次の2点を特に強調されました。

その第一は、経営者が分かり易く使い易い経営モデルを提案したいこと、第二は、社会経済生産性本部、中部産業連盟、日本科学技術連盟、日本規格協会、日本能率協会そして当学会などと連携し、協同で3年間の期間限定で課題を解決し、その間に各団体の役割分担とその後の連携のあり方を探り、この機構の成果はそれぞれの団体に引き継いで貰いたいと抱負を述べられました。

総会の他に理事会と幹事会を置き、



幹事会が運営と課題の設定・評価などの実質的な機構運営を行うことなどを決めました。幹事長には、前田建設の前田又兵衛会長、副幹事長にはNECの佐々木 元会長、コニカの米山高範相談役そして当学会の狩野紀昭会長が

就任されました。このように指導者が産業界現役の経営トップであることはこの機構の大きな特徴です。

総会終了後には、設立祝賀会が行われ、前学会長として、当機構の設立に大変なご苦勞をされた前田会長の喜

びのご挨拶がありました。

7つの部会が設置されました。幹事会の下に以下の7つの部会が設置され、経営者に分かり易く役立つ課題の研究開発がスタートしました。

第1部会：新商品開発（部会長：東京工業大学 圓川 隆夫教授）第2部会：生産プロセス革新（大阪電気通信大学 猪原 正守教授）第3部会：顧客価値創造（成城大学 神田 範明教授）第4部会：自己診断法開発（山梨大学 長田 洋教授）第5部会：経営幹部づくり（早稲田大学 中根 甚一郎教授）第6部会：クオリティ専門家づくり（明治大学 大滝 厚教授）第7部会：職場第一線人づくり（コニカ 米山 高範相談役）

今後とも当機構の活動経過をお知らせ出来る機会があれば幸いです。今後とも学会員各位のご支援・ご協力をお願い致します。

（文責：慈道順一）



私の提言

「品質の抜け」を防ぐ為に

アスモ株式会社 上石 和信



最近の品質問題は大量発生するケースが多く、又、原子力関係・食品関係の件も含めて通常考え難いような事が起きている。

私は仕事として、その殆どを設計開発・製造分野で過ごしてきたが、最近の3年間は品質保証関連の仕事に携わっており、「何故そういう現象になるのか」を自分の仕事環境の変化を参考に考えてみた。今、世界はIT時代と言われ、又、日本においては労務費の相対的高騰によりCost低減に対するプレッシャーは昔の比ではなくなった。

対する仕事の変化としては、

- (1)設計開発：物による試作と評価
3Dによるシミュレーション解析

- (2)製造：人間の手による生産と評価
高度機械設備による生産と評価が主流となってきている。

例えば3D解析では、図面に対して応力とか流れだとかを机上で計算するが結果は紙に数字とか絵で表れてくる。これが如何にも真実に見えるが、実際の物は図面に表れてこないバリとか巣があったりで計算とは違ってくる。

本来、設計者と言えば身の回りにサンプルが沢山転がり、試作部署への出入りが頻繁だった筈が、今は設計室にいてスマートに仕事をしている。

設計環境が余りに便利になったことと効率を上げる必要性が大切な「物を見て自分の眼と手で確認する」プロセスを少なくしている。

この事は製造についても同じで、結果として、物作りに人間の直観と

思考が入り難くなってきており、これが問題発生に大きく関わっていると考えている。

一方、最近の製品は利便性を上げる為に極端にシステム化、複雑化の程度を上げてきており、設計は部分毎に分担せざるを得なくなっている。

ここで必要な事は「設計者間のコミュニケーション」及び「思考の仕方、物の見方に対する上司と部下のコミュニケーション」であるが、これがIT化の逆効果によって、所謂「画面と紙で勝負する」ようになっている事が、問題だと思っている。

昔の品質不良は種類が多くても大量という事は少なかった。これは「物を常に人間の眼と手で確認し思考とコミュニケーションを継続的に行っていた」為で、最近の品質は、これらに「抜け」が起きる事により、大量或いは思ってもいない不良が発生するのだと思う。

我々は今、「これらを改めて設計と製造の工程に入れ込む」事に努力すべきだと考えている。

第1回 ISOマネジメント システム公開講座 ルポ

国土交通省における ISOマネジメントに 関する取り組み

日本品質管理学会創立30周年を記念し、本年8月より8回にわたり企画された「ISOマネジメント・システム公開講座」の第1回講座が8月24日「国土交通省におけるISOマネジメントに関する取り組み」をテーマに66名の参加者により開催された。今回は何時もの学会行事とは異なりISO審査員の方々の参加が多く、テーマに対する審査員の関心の高さを改めて反映した講演会となった。

講演では、国土交通省内でISO9000's推進の中心的な立場におられる大臣官房技術調査課 課長補佐乙井康成氏より、

国土交通省における公共工事へのISOマネジメント等の活用のあり方について、モデル事業や試行工事の実施状況報告、及び建設産業に対するISO9000's・ISO14001とプロジェクトマネジメント（PM）についてのアンケート調査結果
平成13年3月に閣議決定された「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」に基づく

ガイドライン（適正化指針）との関係
国土交通省におけるISO14001とプロジェクトマネジメント（PM）の取り組みの現状について
の3点について主に説明があった。

国土交通省では、審査登録制度の一層の普及と、一定規模以上の建築業者の認証取得が進んでいる現状と、審査内容、審査員の資質に関し一定の評価が得られたとの調査結果を受けて、認証取得が入札条件としての環境が整いつつあるとの認識を深め、従来からのモデル事業から一歩進めた試行工事を本年度以降も積極的に推進する方向性が示された。

また、ISO14001とPMの導入については、導入した場合の有効性の検討を国土交通省内部でCAL/EC（公共事業支援統合情報システム）との連携で進めている段階であるとの説明があった。

講演後の質疑では、建設業を中心とした関心の高さを反映して、公共工事の入札条件としてISO9000's認証取得の取扱いに質問が集中し予定時間をオーバーして活発な討議が行われた。特に閣議決定された適正化指針との関係では、国土交通省の見解と指針の内容とに微妙なスタンスの違いがあることが認識され興味ある内容であった。

池田晃三(竹中工務店)

第271回中部 事業所見学会 ルポ

重要文化財 専修寺 御影堂 平成大修理の状況

第271回事業所見学会は、7月6日重要文化財専修寺御影堂（三重県津市）平成の大修理現場において開催した。今回のテーマは、従来と異なり文化遺産の修理に焦点を当てて「文化財長期保存に向けた補修・復元管理」について企画した。参加者は、29名と少なかったが、女性参加者が8名と多く、例年にない見学会となった。

専修寺御影堂は、江戸時代の寛文6年（1666年）に建設された日本有数の木造建造物で、明治41年～45年の修理以来の大修理が平成12年1月～平成19年12月まで8年に渡って行われている。修理は、半解体修理と呼ばれる方法で、最初に建造物全体を覆う鉄骨造の素屋根を設けることから始まり、以降現在まで屋根等の解体

が進んでいる。解体においては、各部材の破損状況を調査し、その履歴を記録するとともに、建造時の工法の調査も実施される。この結果を基に詳細な修理方針が決定され、具体的な修理が実行されることになる訳で、一般の建築物とは大幅に異なる工期を必要とする。また、修理後の耐用年数は150～200年を見込む設計が実施されるそうで、一般の建造物とは異なる設計思想に文化財の貴重さを痛感させられた。

見学会では、現段階までに判明した事実の説明や、最初に実施された素屋根工事の記録が紹介された。素屋根は、1スパン4.5m高さ32.6mのメインフレームを13回、計58.5mスライドさせて移動するというトラベリング工事によって設営されたが、転倒防止等に細心の注意が払われて無事完了している。

修理現場では、日頃見ることのできない文化財の裏側まで見学することができ、7月の暑い中ではあったが、熱心な見学会となった。 古市久男(新日本製鐵㈱)

2001年7月の入会者紹介

2001年7月27日の資格審査において、下記の通り正会員163名準会員4名賛助会員3社3口の入会が承認された。

(正会員)163名 梶浦雅己(愛知学院大学) 森澤昌樹(日本エルピーガス機器検査協会) 前田行雄(テレオス) 山我幸男(ソニー) 宮堀芳明(エスジーエス・アイシーエス・ジャパン) 永川慎八郎(中小企業ISO促進会) 生江一善(エコ) 渡邊晋久(渡辺コンサルティングオフィス) 加藤洋子(加藤研磨工業所) 松本美次(元・エイ・エス・ティ) 間瀬秀里(日本検査キューエイ) 行武克己(五洋建設) 桑原利雄(日本無線) 松尾由弘(品質環境経営コンサルタント事務所) 柳原公司(アームコンサルティング) 青 佑一(オフィス アオ) 作本裕之(日本品質保証機構) 柴田 清(柴田品質コンサルティング) 関口 清(関口QAコンサルティング事務所) 高砂常義(関東テクノファ) 田中四郎(田中技術士事務所) 田中 実(元・クボタ) 平木邦彦(九州電気工業) 村本光熙(家電製品センター) 大西勉(QAシステム研究所) 小宮重男(ケンウッド) 佐々木進(元・富士電機) 佐藤 悠(ディー・オー・エム) 垂井正志(関西日本電気) 安田洋一(大成スポーツ施設) 川添正義(KAシステム研究所) 弓場慶三(ニチワ電機) 有賀正彦(監査システム技術開発研究所) 井上裕行(元・富士通) 岡上弘毅(元・住友大阪セメント) 沓掛道雄(エー・エム・シー) 服部隆太(元・本田技研工業) 藤森和喜(社会経済生産性本部) 堀井和孝(アローアイソサポート) 松岡克行(アイ・エイチ・アイ・エアロスペース) 與口善之(アイテック) 矢田富雄・川崎利一(日本品質保証機構) 青木 實(ゴムノイナキ工業) 飯間正博(ビジネスインテグレーター) 石垣喜信(アドバンテスト) 岩村順雄(三菱自動車エンジニアリング) 桐野正義(桐野経営コンサルタント事務所) 久保田清美(日本ガイシ) 熊谷淳美(熊谷品質コンサルタント事務所) 栗林秀治(KMSコンサルタンツ) 小池一歩(産業シーリング) 小林幹男(山梨県薬剤会) 斎藤幸男(日本電気) 関 克己(ダイヤモンドビジネスコンサルティング) 田中勇次(住金と歌山プラント) 中島規行(富士電機) 松井直樹(日本科学技術連盟) 百井哲夫(オフィスモモイ) 山口守(エヌ・テック) 熊谷図南(中部産業連盟) 高田春弘(社会経済生産性本部) 澤田真次(ISO登録支援社) 沼尻利喜男(日本品質保証機構) 田中純一

(明倫館) 寺崎正廣(廣経営コンサルタント事務所) 秋葉知昭(山形県立産業技術短大) 豊泉秀雄(マネジメントシステム評価センター) 西村 弘(エスビジネスコンサルティング) 市川庄司(IS経営・技術コンサルタントオフィス) 松下 孝(日本自動車研究所審査登録センター) 小林 正(東海総合研究所) 中村 正(NACマネジメント事務所) 長田正之(大林道路) 黒澤吉重(JRCA登録品質システム主任審査員) 伴 義勝(清水精密) 山下洋司(美友電機サービス) 浅野 充(トーニチコンサルタント) 井上隆三郎(前田建設工業) 小林 章(日本通運) 佐藤光義(日本ハイコム) 首藤久仁夫(日立造船) 関 泰二(日本科学技術連盟) 永坂敏男(プリムイソベン) 新倉博文(ロイドレジスタージャパン) 西野 忠(日立計測器サービス) 野田篤由(国分) 古川 仁(九州松下電器) 松崎和男(ジャコ・トランステクノロジ) 矢野文夫(ヤマハ発動機) 安丸義久(電気安全環境研究所) 佐藤宏樹(中央大学) 亀岡良寿(電気安全環境研究所) 高松秀夫(システム監査テクノ) 田中 悟(田中マネジメントシステム) 田辺美恵子(協和発酵工業) 戸川達夫(ディー・オー・エム) 水谷章治(オムロン宮) 岡 賢(工場マネジメントコンサルタント) 高橋廣男・佐々木明・飯村郁郎・野口峰利・月岡高志・三宅智久・藤倉和雄・斎藤 武(JUKI) 山崎康夫(中部産業連盟) 渡辺洋次郎(セコニック) 原田義美(関東化学) 高橋邦雄・高橋高男(あさひ銀総合研究所) 佐藤郁子(明徳会福岡歯科) 藤本勇(マツダ) 杉野正義(湘南ユニテック) 平野 徹(横河総合研究所) 水谷 信(デンソー) 須藤健(電気安全環境研究所) 有村重徳(マネジメントシステム評価センター) 小林 寿(松下通信工業) 中野喜八郎(B.S.I.ジャパン) 井上国治(松下電送システム) 坂本求吉(JRCA主任審査員) 田中稔広(日本検査キューエイ) 檜山 功(日本経営研究所) 中川正義(中川経営コンサルティング) 雪本直樹(NTTデータ) 岩瀬昌敏(グローバルマネジメント) 酒井保治(ISOコンサルティング協会) 並本寿雄(テイ・ケイ・シスコム) 西村辰也(エイチエスピージャパン) 太田 譲・畑中敏雄・皆川辰也・山内得次・岩本哲弥(豊田紡織) 杉本総一郎・秋田与志雄・下川和則・牧原正典・小島康史・木船威雄・棚橋慈孝・小松 繁(デンソー) 大塚徳彦(ソニーケミカル) 瀬崎 操(ブリヂストン) 西村悠爾(新潟工学振興会) 松本俊男(ソーマ) 間野 隆(日本総合研究所) 山口英和(高見沢サイバネティクス) 吉田信行(エクセルインターナショナル) 坂口修二(九州

運輸建設) 中山 弘(本田技研工業) 前川恒久(日立プラント建設) 野内正義(エムエス経営システム研究所) 米山兼二郎(アシップ) 長田孝文(防衛庁契約本部) 鈴木淳一(アマダ) 倉橋 務(ダイハツ工業) 伊藤由巳(中国パール販売) 飯沢路規(東電通) 佐々木健太(ロイドレジスターウォリティアシュアランス) 宮岸秀明(エーザイ)

(準会員)4名 木綿谷裕美・小林明子(山梨大学) 陳ショウ(杏林大学) 李 冬(中央大学)

賛助会員 3社3口 ジューキ広島製作所(代表取締役 田畑 寛) ジューキ電子工業(代表取締役 仲野敏一) 中島製作所(代表取締役 松浦久繁)

正会員:3043名 準会員:101名

賛助会員:192社,217口 公共会員:21口

教員募集

電気通信大学教官募集

職 種:システム工学科助教授1名

専門分野:ソフトウェア工学・ソフトウェア生産工学・情報ネットワークマネジメント

応募資格:博士号を有し、35歳から40歳前後

申込締切:平成13年10月31日

着任時期:平成14年4月1日以降早い時期

詳 細: <http://www.se.uec.ac.jp>

問合せ先:システム工学科 教授 鈴木和幸 宛
TEL 0424-43-5265
e-mail suzuki@se.uec.ac.jp

職員募集

群馬県職員募集

職 種:研究員(CAE技術研究員他)

応募資格:平成14年4月1日現在
27歳以上の人

申込締切:平成13年10月31日消印有効

採 用:平成14年4月1日予定

問合せ先:群馬県商工労働部工業振興課
産業技術センター整備推進係
TEL 027-226-3359
(ダイヤルイン)
e-mail morota-ry@pref.gunma.jp

行 事 案 内

30周年記念ISOマネジメント・システム
公開講座 第3回

日 時:2001年10月12日(金)

18:00~20:00(質疑30分含)

会 場:(財)日本科学技術連盟

東高円寺ビル 2階講堂

テーマ:ITビジネスと情報セキュリティ

田淵 治樹氏(独立行政法人
製品評価技術基盤機構)

公開講座 第4回

日 時:2001年11月19日(月)

18:00~20:00(質疑30分含)

会 場:(財)日本科学技術連盟

東高円寺ビル 地下1階講堂

テーマ:どうなる安全衛生マネジメント

吉澤 正氏(筑波大学 教授
大学院経営システム科学)

参加費:3回、4回各々

学会員3000円 非会員5000円

申込方法:氏名・所属・連絡先・参加

希望回を明記の上FAXまたは

E-mailにて、お申込ください。

FAX 03-5378-1507

E-mail apply@jsqc.org

第31回年次大会・山梨大学(甲府)

日 時:2001年10月26日(金)27日(土)

26日(金)事業所見学会

13:45~17:00 AまたはB

A:横河電機(株)甲府事業所

B:サントリー登美の丘ワイナリー

18:00~20:00 懇親会 山梨大学

27日(土)通常総会/講演会/チュートリアルセッション/研究発表会

9:30~10:30 通常総会

10:30~10:45 会長挨拶(狩野紀昭氏)

10:45~11:45 講演「日本ものづくり・

人づくり質革新機構の目指すもの」

高橋 朗氏(デンソー会長)

12:45~13:45 チュートリアルセッション

A:「経営品質の評価・診断」

伊藤 要蔵氏(アイシン精機)

B:「バランススコアカードの理論
と実際」

野崎 通氏(富士ゼロックス)

13:50~17:00 研究発表会

参加費:

見学会(26日)

会 員2500円 非会員3500円

準会員1500円 学生(一般)2000円

懇親会(26日)

会 員・非会員4000円 学生2000円

講演会/研究発表会(27日)

会 員5000円(締切後5500円)

非会員7000円(締切後7500円)

準会員2500円 学生(一般)3500円

申込方法:同封申込書に所定事項をご記入の上、本部宛お申込下さい。